

目 次

2009/2010 年度評議員・役員選挙の結果.....	1
日本中東学会の方向と課題の再考.....	2
第 25 回年次大会の準備、順調に進む.....	3
「暴力と平和を考える—ヒロシマの視点から」企画趣旨	4
2008 年度第 3 回/2009 年度第 1 回合同理事会報告	5
第 13 期第 1 回理事会報告	7
『日本中東学会年報』(AJAMES)編集委員会報告.....	8
「叡智の架け橋」プログラム参加の呼びかけ.....	9
Wisdom Bridging Japan and the Islamic World.....	10
会員の異動.....	11
寄贈図書.....	12
学会事務局の交替について	13
事務局より	14
編集後記.....	14

2009/2010 年度評議員・役員選挙の結果

2009/2010 年度(第 13 期)評議員・役員選挙の結果をお知らせいたします。

評議員選挙については、2009 年 1 月 19 日開票の結果、有権者数 406 名のうち、投票者数 144 名(うち有効票 116、無効票 27、白票 1)、投票率は 35.5%でした。学会細

則Ⅷ-2により、評議員数は60名以内と定められており、得票数58位の被選挙権者を加えると、61名を超えますので、今期の評議員は下記の57名で確定しました。

また、2008年12月22日付け「日本中東学会第13期評議員選挙投票のご案内(訂正版)」にてお知らせしましたように、最初にお配りした投票用紙に誤りがあって再配布を行った結果、無効票が多数に上ることになり、会員の皆様にご迷惑をおかけしました。こうした事態が生じることのないよう、次回評議員選挙の手続きについて検討事項の申し送りを行い、十分に備えることといたしますので、よろしくご了解のほどをお願い申し上げます。

青山弘之、赤堀雅幸、秋葉淳、新井政美、飯塚正人、板垣雄三、岩崎葉子、白杵陽、宇野昌樹、江川ひかり、大河原知樹、大塚和夫、大稔哲也、岡真理、加藤博、私市正年、栗田禎子、黒木英充、小杉泰、後藤明、後藤裕加子、小牧昌平、小松久男、小松香織、近藤信彰、酒井啓子、坂本勉、桜井啓子、佐藤健太郎、佐藤次高、清水和裕、清水学、杉田英明、鈴木均、鷹木恵子、立山良司、店田廣文、東長靖、内藤正典、長沢栄治、永田雄三、長谷部史彦、八尾師誠、羽田正、林加世子、福田安志、保坂修司、堀川徹、松永泰行、松本弘、三浦徹、三沢伸生、森本一夫、山内昌之、山岸智子、山口昭彦、湯川武
(50音順、敬称略)

評議員選挙に続き、新評議員による理事選挙が行なわれ、2月3日開票の結果、以下の13名が選出されました。なお、理事選挙にあたり、会則第9条の規定により、飯塚正人、酒井啓子、林佳世子の各評議員は被選挙権を保有しないため、予め理事候補より除外されました。投票数43(うち有効票41、無効票1、白票1)、投票率は75.4%でした。

赤堀雅幸、白杵陽、大稔哲也、加藤博、栗田禎子、黒木英充、小杉泰、小松久男、桜井啓子、東長靖、長沢栄治、三浦徹、山岸智子 (50音順、敬称略)
(2009～2010年度役員選挙管理委員会)

日本中東学会の方向と課題の再考

第12期会長 私市正年
(上智大学外国語学部)

2年前、私は本学会の会長就任にあたり、「日本の中東研究の方向と課題について」と題して3点をあげた(『日本中東学会ニューズレター』No.111)。会長の任期2年間を振り返り、あらためてこの問題を考えてみたい。

第1は、国外への知識・情報の発信を一層促進すること。この課題はそれほど心

配がないように思う。欧米の学会や研究会への参加・発表、現在進行中の「イスラーム地域研究」プログラム(人間文化研究機構)や文部科学省「イスラーム地域研究」プロジェクトなどの主催による国際会議での報告によって、多くの研究者が国外の研究者と接し、意見交換をする機会は確実に増えているからである。この点に関してあえて言うならば、中東の現地での報告やその地域の言語(アラビア語、トルコ語、ペルシア語など)での意見交換が不足していることではなかろうか。

第2は、専門地域とディシプリンを互いに越境する地域研究の原点にたった研究をめざすこと。若い研究者の就職難もあってか、研究はますます細かな文献学的研究や実証研究へと向かっている。それはそれで仕方ないのかもしれないが、地域研究を看板とする学会の立場からすれば、かつてH. A. R. ギブが「個別の書誌学的研究や現実の世界の諸問題から離れた出家遁世的研究」として非難した伝統的東洋学の方向に逆戻りすることのないよう注意すべきだろう。おそらくそのためには、若手研究者の業績を評価する立場にあるシニア研究者が評価の基準を変えなければいけないと思う。より広い視点や比較の視点をもった研究へと仕向けるような研究指導とそうした成果を評価する(つまり就職に結びつく)姿勢を、シニア研究者がもつということである。

第3は、中東研究の拠点構築をめざして努力をすること。幸いにして、2006年度から「イスラーム地域研究」プログラム(人間文化研究機構)が、2008年度から「イスラーム地域研究」プロジェクト(文部科学省)が、開始された。どちらも研究拠点の構築と研究者ネットワークの確立が意図されている。拠点構築の対象とされた機関とそうでない機関との間の格差を危惧する声も聞かれないわけではないので、参加の機会や組織運営、あるいは成果利用などをより開かれた体制(たとえば中東学会が関与するなど)へと変えていくことも必要かもしれない。

最後に学会運営について述べたい。学会事務局がたまたま私の研究室に置かれてあったので、事務運営の様子をつぶさに観察することができた。一言でいえば「異常」である。高度情報化社会と責任説明社会のためか、高度な技術力と想像を絶する仕事量を事務局担当者に要求している。もはや自己の研究を犠牲にする覚悟のある者しか事務局を運営できなくなっている。会員全員が事務局運営を少しでも軽減するような努力(たとえば会費の銀行口座自動引き落とし制導入、住所の登録や変更のきちんとした連絡、紙媒体によるニューズレターの廃止など)をしないかぎり、会費の大幅な値上げによって専門的な事務局員の雇用という道を考えなければいけない事態になりつつあると言えよう。

第25回年次大会の準備、順調に進む

5月16日、17日両日に予定されています第25回年次大会の準備は、実行委員会のメンバー全員の全面的な協力もあって順調に進み、大会当日の細かな作業の確認などを

残す程度となりました。まず、初日の公開シンポジウムについてですが、今回の大会が「被爆地広島」で開催されるということ踏まえて、「暴力と平和を考えるーヒロシマの視点から」をテーマに開催することになりました。その趣旨を以下に記しましたので、ご参照下さい。次に、大会参加および懇親会についてですが、事前申込みに間に合わなかった方も、当日の受付で参加の手続きをすることができます。より多くの方々のご参加をお待ち申し上げます。

当日参加費：1,000 円

当日懇親会費：5,000 円(学生会員は 4,000 円)

連絡先

日本中東学会第 25 回年次大会実行委員会事務局

〒731-3195 広島市安佐南区大塚東 1-1-1 広島修道大学 堀井優研究室

TEL: 082-830-1226 FAX: 082-848-2765 (共用)

E-mail: james2009@am25.intl.hiroshima-cu.ac.jp

*可能な限りメールでご連絡・お問い合わせいただければ幸いです。

(日本中東学会第 25 回大会実行委員会事務局)

「暴力と平和を考えるーヒロシマの視点から」企画趣旨

人と人との間で交わされる暴言や暴力に始まり、差別や偏見、また家庭内暴力、そして国家間の戦争に至るまで、この世界は様々なかたちの暴力に満ち溢れている。20 世紀は「戦争の世紀」と言われ、次の 21 世紀こそ「戦争のない世紀」になるようにと、多くの人たちが希求し、今もその願いに変わりはない。しかし、その願いとは裏腹に、現実には暴力が家庭や学校、そして世界の至る所で渦巻いている。

20 世紀における暴力の極みは、ユダヤ教徒に対するホロコーストであり、また広島、長崎への原爆投下であろう。これらの暴力によってどれだけの人たちが理不尽にも生を奪われ、生きてなお受けた暴力や放射能により、精神的、肉体的に塗炭の苦しみに苛まされていることであろうか。パレスチナ問題をはじめとする中東が抱える数多くの問題も、こうした暴力の歴史の延長線上にあることは、今更言うまでもない。

ここ広島で、日本中東学会年次大会が開催されるにあたり、シンポジウムではこの暴力と平和の問題を正面から取り上げることにした。3 人のパネリストのうち、中国新聞特別編集委員の田城明氏には、湾岸戦争、コソボ紛争、あるいはイラク戦争などで使用された劣化ウラン弾による被害に関する現地取材を踏まえて、広島との繋がりや、戦争がもたらす人間性や日常生活の破壊の側面を浮き彫りにする報告をして頂く。次に国際法学が専門の中坂恵美子氏からは、中東諸国出身者を多く含む移民・難民問題を切り口に、ヨーロッパ世界での制度的な差別(と暴力)、それに対する EU やヨーロッ

パ議会の見解と取り組み、さらに NGO の地道な人権活動を踏まえた問題提起をして頂く。3 人目のパネリストとして、東アジア、特に中国事情に詳しい専門家であると同時に、広島平和研究所長である浅井基文氏には、「国際平和と都市広島」が抱える問題に基づいて、広島の持つべき普遍的意味と歴史的な課題をご報告頂く予定である。

このように、いずれのパネリストも中東学会員ではないが、世界に拡散する差別と暴力を問題認識の射程に据えておられる点で、中東と非中東世界の間で行き交う現実の一断面の理解に繋がる重要な視点を提供して頂けるものと考えます。

以上のパネリストからの報告を受けて、シンポジウム後半では 3 名のディスカッサントを中心に、「暴力」を拒絶しながら「平和」に向けた処方箋を如何に練り上げるかについて、多角的な視点から議論して頂ければと考える。米国における劣化ウラン弾被害、ヨーロッパにおける移民・難民問題、そして広島における「平和」問題を通じて、中東問題が広く域外の暴力に連動・拡散し、平和への新たな克服すべき障害や課題を作り出して止まない現状を踏まえ、活発かつ生産的な議論が展開されることを望みたい。

暴力拡散の現実世界と平和への飽くなき希望、絶えず加害と被害の間で揺れ動きながら、60 年以上に渡って世界平和の理想に向け努力を重ねてきたヒロシマの普遍的視点を活かし、「戦争のない世紀」を現実のものにするための具体的な手がかりを得ることが、このテーマのもとで公開シンポジウム開催を決定した企画者一同の願いである。

(宇野昌樹)

2008 年度第 3 回/2009 年度第 1 回合同理事会報告

日時：2009 年 4 月 8 日(金)18:00～19:00

場所：上智大学 2 号館 230a 会議室

出席：(12 期) 私市正年会長、酒井啓子、飯塚正人の各理事

(12・13 期) 赤堀雅幸、大稔哲也、加藤博、桜井啓子、山岸智子の各理事

(13 期)長沢栄治会長、臼杵陽、三浦徹の各理事

オブザーバー：店田廣文

委任状提出：(12 期)林佳代子、青山弘之、黒木英充、東長靖、山口昭彦、(13 期)小杉泰、小松久男の各理事

欠席：(12 期)大塚和夫、羽田正、(12・13 期)栗田禎子の各理事

議題

1. 新会長の選任等に関する報告

- ・ 2 月 26 日に開催された第 13 期理事予備会合で暫定的に長沢栄治理事が会長候補に選任されたという報告があり、長沢会長候補から店田廣文会員に事務局長への就任を依頼し内諾を得たこと、事務局を早稲田大学イスラーム地域研究機構に設置する方向で交渉中であるという報告があった。

2. 評議員選挙・理事選挙の報告

- ・ 赤堀第 12 期事務局長から、評議員選挙・理事選挙の報告があった。 → 1~2 ページをご覧ください。

3. 第 13 期への引き継ぎ事項

第 12 期の担当理事から担当事業上の引き継ぎ事項について報告があった。

〈国際交流担当について〉（酒井）

- ・ 韓国中東学会会長の年次大会への招聘費用の捻出が今後の課題である。
- ・ 2010 年には、WOCMES と AFMA 中国大会が予定されている（上海での開催であり運営面での問題が起きないか、注意検討する必要がある）。
- ・ AFMA ホームページは前年度 JAMES がたちあげ 09 年度にアップデート予定、アップデート後に中国の担当組織に知らせる必要がある。
- ・ 韓国中東学会・モンゴル中東学会の希望に沿って、AFMA に新設予定のロシア中東学会の参加を求めるか、東南アジア諸国などでの学会形成を支援するか、検討の必要がある。

〈地域研究会連絡協議会について〉（大稔）

- ・ 大塚事務局長・大稔事務局担当として協議会の事務局を運営してきたが、大塚理事が健康上の理由で職務の継続が困難となり、11 月 22 日の協議会総会で大稔理事が事務局長に決定した（事務局任期は 11 月下旬まで）。
- ・ もう一名担当理事を選ぶこと、また、次の事務局を担当する学会への打診を行う必要がある。

〈公開講演について〉（桜井）

- ・ 2009 年度の公開講演会は、札幌で、北海道大学スラブ研究センター後援で開催予定、日時・報告者もほぼ決定できた。
- ・ 科学研究費補助金（研究成果公開促進費）「研究成果公开发表（B）」が採択された（1,100,000 円）。

〈データベースについて〉（飯塚）

- ・ 東洋文庫による委託事業を推進している。

〈財務について〉（飯塚）

- ・ 前期に会費を値上げしたばかりであり、また昨今の経済状況から賛助会員の獲得は難しく、財政状況の大きな改善は見込みがたい。
- ・ 定職のない正会員の会費を見直し、名誉会員、終身会員の設定、学生会員の資格確認などについて議論を継続すべきである。
- ・ 会費前納制の廃止は現時点では困難と言わざるをえない。

〈ニューズレターについて〉（山岸）

- ・ 担当理事と新事務局とで分担について協議が必要である。

〈『日本中東学会年報』について〉（編集委員長代理として赤堀）

- ・ 非会員の投稿が可能になった点が大きな変化である。
- ・ 特集を組むのが難しい状況が続いている。
- ・ AFMA 加盟学会会員の AJAMES 掲載希望は原則受け入れることになっているが、査読などについて国際交流委員長と編集委員長との協議が必要である。
- ・ 編集委員会の構成、理事会の委員会に対する責任のあり方などについて慎重な検討が必要である。
- ・ 2010～2013 年度について、科学研究費補助金(研究成果公開促進費)「学術定期刊行物」に採択されたが、交付金額は大幅に減額された(2009 年度 1,300 千円に対し 2010 年度 1,000 千円、2011～2013 年度 900 千円)。

〈その他〉

- ・ 2010 年度年次大会について開催場所の交渉が進んでいる。
- ・ 会則の中に文言の矛盾があるので次の大会で会則改正が必要である。
- ・ 第 12 期から貸倉庫を使用している。
- ・ 事務局への業務の集中、必要な技術水準の高度化などからも、事務局長補佐を置くことを検討すべきだとの意見が出された。
- ・ 情報化担当理事を置くべきとの意見が出された。

第 13 期第 1 回理事会報告

日時：2009 年 4 月 8 日(金)19:00～21:00

場所：上智大学 2 号館 230a 会議室

出席：長沢栄治会長、赤堀雅幸、臼杵陽、大稔哲也、加藤博、桜井啓子、三浦徹、
山岸智子の各理事、オブザーバーとして店田廣文

委任状提出：小杉泰、小松久男の各理事

欠席：栗田禎子理事

議題

1. 新会長の選任、新事務局の決定
 - ・ 長沢栄治理事を第 13 期の会長として正式に選任した。早稲田大学に新事務局を置くことを決定した。
2. 特任理事の選任
 - ・ 店田廣文会員を事務局長、山口昭彦会員を編集委員会委員長、青山弘之会員を編集委員会委員長代行の特任理事として承認した。
3. 理事の任務分掌
 - ・ 第 13 期理事の任務職掌を次のように決定した。

会長：長沢栄治
事務局長：店田廣文
事務局長補佐：東長靖
AJAMES 編集委員会：青山弘之、加藤博、栗田禎子、山口昭彦
国際交流委員会：白杵陽、東長靖、三浦徹
渉外(地域研究学会連絡協議会事務局)：大稔哲也、小杉泰
企画：加藤博、黒木英充、小松久男、桜井啓子
財務：赤堀雅幸、小杉泰
ニューズレター編集：山岸智子

以上

『日本中東学会年報』(AJAMES)編集委員会報告

『日本中東学会年報(AJAMES)』編集委員会より、ご報告いたします。

1. 24-2号刊行のお知らせ

すでにお手元に届いていることと思いますが、24-2号が2009年2月に刊行されました。論文(和文)3本、研究ノート(英文)1本、書評(英文)1本が掲載されています。会員の方で冊子がお手元に届いていない方がおられましたら、事務局にご一報ください。

2. 25-1号編集中

現在、25-1号の編集作業を鋭意進めております。今年7月の刊行予定です。

3. 25-2号投稿締め切りのお知らせ

25-2号(2009年12月刊行予定)への投稿締め切りは、6月20日です。論文、研究ノート、書評など、各ジャンルへの投稿をお待ちしています。そのほか、英文による特集の企画がありましたら、ぜひお寄せください。

4. 投稿先・連絡先

4月より投稿先・連絡先が以下の通り、変更となりました。

〒183-8534 府中市朝日町3-11-1
東京外国語大学総合国際学研究院 青山弘之研究室気付
『日本中東学会年報』編集委員会

なお、メール・アドレスには変更はありません。

ajames-editor@tufs.ac.jp

どうぞよろしくお願ひいたします。 (AJAMES 編集委員長 山口昭彦)

「叡智の架け橋」プログラム参加の呼びかけ

現在、いくつもの中東・イスラム世界との間で、交流の企画がもたれています。アカデミズムにおいても例外ではなく、日本国内の大学・高等研究機関において、中東・イスラム世界の研究機関との情報共有、共同研究、学術交流へのニーズの高まりがみられます。翻って、中東・イスラム諸国側も、欧米社会が支配する世界観に不安を抱いており、日本や東洋の国々との知的・人的交流の促進がバランスのとれた健全な社会の構築に貢献するものと考えようになってきています。

ところが、残念なことに、これまでのところ、日本においても中東・イスラム諸国においても、こうした交流の試みは、互いに連携のないまま、独立して進められています。このことは、ことの重要性和限られた資金・人材を考えると、まことに効率性を欠くといわざるを得ません。そのため、多くの知的・人的交流企画を情報の共有によって結びつけることは、今後の中東・イスラム研究の発展にとって急務であると考えられます。

そこで、われわれ中東研究者有志は、日本と中東・イスラム諸国の有識者間の意見交換を促し、関連情報の共有によって双方をつなぎ、交流の成果を世界に発信する有識者間ネットワーク（「叡智の架け橋」）の構築を企画いたしました。この企画の出発点となったのは、日本の外務省が取り組んできた「日本とイスラム世界との間の文明間対話」プログラムです。（その内容の詳細については、<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/islam/index.html> を参照ください。）

このプログラムは、世界の文明間対話の一環として、日本とイスラム諸国の有識者に自由な知的交流の場を設定し、日本とイスラム世界との間における相互理解を促進することを目的としたもので、平成 14 年以来、毎年セミナーを実施してきました。「日本とイスラム世界との間の文明間対話」セミナーを主催してきました。セミナーは、バーレーンでの第 1 回を皮切りに、東京、テヘラン、チュニス、東京、リヤドと回を重ね、今年 3 月におけるクウェートで、第 7 回目の開催になりました。

現在企画されている有識者間ネットワーク「叡智の架け橋」は、恒常的な制度としてではなく、さまざまな機会を捉えて、現在進行中あるいはこれからスタートする日本の中東・イスラム研究プログラム、イスラム諸国の日本研究プログラム、関連する国際会議などの情報を共有するための緩やかな有識者や研究機関のネットワークとして構想されています。その具体策はこれからの検討事項ですが、とりあえずは、日本イスラム協会に、小野安昭（前チュニジア大使）、加藤博、長沢栄治、八尾師誠、保坂修司（敬称略、日本中東学会会員）で構成されるタスクフォース事務局を置き、関係ウェブサイトを立ち上げることを企画しております。日本イスラム協会に事務局を置くのは、当協会がすでに法人格をもっており、一定の財源を持ったプロジェクトを立ち上げるのに好都合だからであります。

この企画に対しては、バーレーンとクウェートからの協力が取り付けられてお

り、タスクフォース事務局は、当面、両国当局との間での意見交換と交渉なかで、企画の実現化を図っていくことになるかと思えます。下記の文章 **Wisdom Bridging Japan and the Islamic World** は、第7回クウェート会合において、当該企画に対する日本側の考えを述べたものです。そこでは、より立ち入った主張がなされています。ご参照ください。

以上、今後、当該企画がより現実的になり次第、皆様に改めてお願いいたすことになると思いますが、とりあえず、われわれの意図をご理解いただき、ご協力いただけることを、切にお願い申し上げます。

Wisdom Bridging Japan and the Islamic World

Considering the necessity of promotion of mutual understanding between Japan and Islamic World, the Japanese delegation to the 7th Seminar of the Dialogue among Civilization between Japan and the Islamic World”, which is held in March 11 and 12, 2009 in Kuwait, proposes an idea of launching a creative intellectual network, named Wisdom bridging Japan and the Islamic World to facilitate intellectual exchange and collaboration among researchers, scholars and citizens in Japan and the Islamic world.

This network is set up to institutionalize the dialogue of civilizations between Japan and the Islamic World. Its aim is to encourage the future knowledge sharing among intellectuals of Japan and the Islamic World for direct dialogue between Japanese and peoples of Muslim countries, and to promote the research projects for mutual understanding; Islamic studies in Japan and Japanese studies in Muslim countries.

This network is managed by the Secretary Office, whose headquarter is located in the office of the Association for Islamic Studies in Japan (www.soc.nii.ac.jp/aisj), an oldest research association for Islamic studies in Japan, in Tokyo. The main works are as follows.

To set up and maintain the website for this network in Japanese, English and Arabic.

1. To arrange the open lectures to citizens for direct dialogue between Japanese and peoples of Muslim countries.
2. To give a financial aid to civilian activities for direct dialogue between Japanese and peoples of Muslim countries.
3. To organize the exchange program for youth between Japan and Muslim countries for the deepening of mutual understanding in the future.
4. To promote the research projects to open up a new horizon for studies on the relations between Japan and the Islamic World by arranging symposia, joint researches and so on.

The Secretary Office is organized by the staffs from Japan and Muslim countries.

The Secretary Office is managed by a fund that is established for the above mentioned works of the Secretary Office. The fund is financed by the membership fee and donation from the organizations and persons in Japan and Muslim countries.

Any organization and person can freely join into and withdraw from the network. However, each should register as a member of the network at the Secretary Office.

(加藤博)

会員の異動

今号の「会員の異動」では、新入会員と退会者の紹介のみ掲載しております。所属先・住所等変更の情報につきましては、年次大会開催に合わせて発行される 2009～2010 年度会員名簿をご覧ください。

【新入会員】

岩本 佳子

黒宮 貴義

齊藤 優子

佐藤 尚平

千條 真理子

椿原 敦子

西村 征也

平松 亜衣子

Aleksandra
Majstorac-
Kobiljski

Humayun Kabir

Naglaa Fathy
Hafez

【2008 年度末をもつての退会者】

梅田 輝世／岡倉 徹志／河井 知子／佐伯 彩／真田 安／富永 智津子／長
場 紘／中村 廣治郎／福原 信義／松村 耕光／牟田口 義郎／村田 靖子／
家島 彦一／山本 啓二／横瀬 智枝／Hanan A. Kholoussy／

寄贈図書

【単行本】

岩崎えり奈『変革期のエジプト社会』書籍工房早山、2009 年。

末成道男、グエン・ヒュウ・トン編『トゥアティエン・フエ省における伝統文化の
変容——人類学・歴史学および内・外の視点からの接近』新江利彦監訳、東洋
大学アジア文化研究所アジア地域研究センター、2009 年。

菅瀬明子『イスラエルのアラブ人キリスト教徒——その社会とアイデンティティ』
溪水社、2009 年。

東洋大学アジア文化研究所・アジア地域研究センター監修『東洋倶楽部『東洋』』
CD-ROM 版 ver. 1、東洋大学アジア文化研究所アジア地域研究センター、2009 年。

東洋大学アジア文化研究所・アジア地域研究センター監修『日土協会『日土協曾會報』』
CD-ROM 版 ver. 1、東洋大学アジア文化研究所アジア地域研究センター、2009 年。

西野節男編『現代カンボジア教育の諸相』東洋大学アジア文化研究所アジア地域研究センター、2009年。

【逐次刊行物】

『アジア太平洋フォーラム・淡路会議 2008』兵庫県国際交流協会、2009年。

『学術フロンティア報告書 2008年度』東洋大学アジア文化研究所アジア地域研究センター、2009年。

『京都大学地域研究統合情報センター 年報 2008』京都大学地域研究統合情報センター、2008年。

『平成20年度 考古学が語る古代オリエント——第16回西アジア発掘調査報告会報告集』日本西アジア考古学会、2008年。

『CAWW NEWS——未来通信』14号、女性と仕事の未来館、2009年。

『季刊アラブ』128号、日本アラブ協会、2009年。

『Frontier ニュースレター』15号、東洋大学アジア文化研究所アジア地域研究センター、2009年。

『Global COE Program NEWSLETTER』3号、京都大学東南アジア研究所、2009年。

『NII Today』43号、国立情報学研究所、2009年。

Acta Orientalia Academiae Scientiarum Hungaricae, vol. 61 no. 3-4, Akadémiai Kiadó, 2008.
Newsletter, no. 77, Research Centre for Islamic History, Art and Culture (IRCICA),
Organisation of the Islamic Conference (OIC), Istanbul, 2008.

学会事務局の交替について

2009年度から、学会事務局は早稲田大学イスラーム地域研究機構に所を移し、店田廣文理事が事務局長として、これを担当いたします。新事務局の連絡先は、次のとおりです。ただし、5月16～17日に開催される本年度の学会年次大会・総会までは、上智大学アジア文化研究所の旧事務局が会務にあたりますので、ご注意ください。なお、AJAMES 編集委員会の連絡先も変更になっておりますので、ご注意ください(ページをご覧ください)。

【新事務局連絡先】

〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町513番地 早稲田大学120-4号館3階
早稲田大学イスラーム地域研究機構気付 日本中東学会事務局
Tel & Fax: 03-5286-1966
Eメール: james@db3.so-net.ne.jp

事務局より

長沢新会長、店田新事務局長の下、新体制の理事会と事務局が発足しました。第13期に日本中東学会がいつその発展を遂げることを祈ってやみません。

第12期の2年間はあるという間に過ぎました。ようやく会務の全体に通じてきたと思う頃には退任というのももったいない(だからといってもう1回やりたいわけではありません、念のため)気もしますが、一理事として微力ながら第13期に貢献するのに事務局長の経験を生かしたいと思います。

事務局を支えてくれた久保美智子さん、小村明子さん、関加奈子さん、鳥越容子さん、三代川寛子さんの献身的な努力に心から感謝申し上げます。会員の皆様にも様々な形で会務にご協力いただきました。改めて御礼申し上げます。

編集後記

第13期もニューズレター編集担当となりました。ニューズレターをより魅力的なものにして、学会員がより親密になるように、学会のムードを良くすることが課題です。力の及ばないことも多いとは思いますが、ひきつづきよろしく願い申し上げます。(山岸智子)



日本中東学会ニューズレター 第117号

発行日 2009年5月13日
発行所 日本中東学会事務局
印刷所 東洋出版印刷株式会社

日本中東学会事務局

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1
上智大学アジア文化研究所気付
Tel & Fax: 03-3238-3693
Eメール: james@db3.so-net.ne.jp
<http://wwwsoc.nii.ac.jp/james/>
郵便振替口座: 00140-0-161096(日本中東学会)
銀行口座: 三井住友銀行渋谷支店(普)5346808
(日本中東学会 代表 私市 正年)
ゆうちょ銀行口座: 〇一九店(当)0161096
(ニホンチュウトウガクカイ)

